

執筆要領

原稿の執筆にあたっては、「投稿規程」および「投稿論文チェックリスト」とともに本執筆要領を参照する。また、投稿前には文章を推敲し、誤字や文献引用の記入ミスがないように努める。

I 論文の体裁

1. 原稿は上記表1または表2の順に記述し、論理的に記述され明快な文章で記載する。
2. 投稿原稿の1編は本文、文献、図表、写真を含め16枚以内(16,000字以内)とする。投稿原稿が英文の場合、投稿原稿1編のwords数は6,000語以内とする。これを超えるものについては受領しない、もしくは短縮を求める。図表、写真はA4判1頁(1,000字)を基準とし、図表、写真の大きさに応じて0.5頁(500字)等と換算する。
3. 250 words以内の英文抄録並びに400字以内の和文抄録をつける(投稿原稿が英文の場合、和文抄録は不要)。「活動報告」は英文抄録を省いてもよい。和文抄録と英文抄録の構成は、目的(Objective)・方法(Methods)・結果(Results)・考察(Discussion)にわけて、見出しをつけて記載する。英文抄録と和文抄録の内容があっているかを確認し、英文抄録はネイティブチェックを受ける。投稿原稿が英文の場合は抄録を含む論文全体のネイティブチェックを受け、投稿時にはその証明となる書類のPDFファイルを電子投稿システムにアップロードする。
4. 投稿時から遡って過去1年以内での発表内容に関係する企業・組織または団体とのCOI状態については、必要事項を記入した「本会の学会誌等で発表を行う著者の利益相反(COI)申告書」を電子投稿システムにアップロードする。
5. 原稿は原則として、パーソナルコンピューターなどのソフトウェアで作成する。
6. 原稿はA4判横書きで、1行の文字数を25字、1ページの行数を40行(1,000字)とし、文字数にはスペースを含める。原稿の余白は、左右35mm、上下20mmとし、適切な行間をあける。和文の句読点は全角の「、」と「。」を用い、英文の句読点は半角の「,」と「.」を用いる。

II 表記

1. 文の見出しは、以下に示す階層で構成する。見出しに付ける数字・記号、およびピリオドは全角を使用する。

・第1層	I. II. III.	中央揃え
・第2層	1. 2. 3.	左端揃え
・第3層	1) 2) 3)	左端揃え
・第4層	(1)(2)(3)	左端揃え
2. 数字や記号(%など)、アルファベットは、原則として半角とし、括弧は全角とする。統計記号として用いる文字は、イタリック体とする(*N*, *M*, *SD*, *P*<0.05, *t*-test など)。但し、ギリシャ文字(α , β , χ^2)はイタリック体を使用しない。有意水準と図表におけるアスタリスク(*)について、*P*は大文字・イタリック体とする。「*」は他の記号で代替しないが、2種類の差異が記載される場合は、他の記号を用いても良い。
3. 外国語はカタカナで記載し、外国人の名前や日本語訳が定着していない学術用語などは、原則として活字体の原綴で書く。
4. 年の表記は、原則西暦を用いる。元号表記は、行政資料の名称など、必要な場合のみとす

る。

5. 図、表および写真は、図1 (Figure 1) , 表1 (Table 1) , 写真1 (Photo 1) など通し番号をつけ、その後にタイトル名を簡潔に記載する。図、表および写真は、1点につきA4判1枚ずつ配置し、本文原稿右欄外にそれぞれの挿入希望位置を朱書きする。

【表の記載方法】

- ・表の罫線は必要な横罫線にとどめ、縦罫線は使用しない。縦罫線のかわりに十分な空白をおく。
- ・表には N を入れ母集団がわかるようにし、表中の語は簡潔に記載し、単位も明瞭に示す。表注には一般注、特定注、確率注の3種類があり、表の下に表示する。一般注は表全体に関わる情報、特定注は特定の列、行またはセルに関する注釈、確率注はアスタリスクや他の記号が表中で P 値および統計的仮説検定の結果を示すためにどのように使用されているのかを示す。表注は、一般注、特定注、確率注の順序で並べる。記載例を以下に示す。

表1 性別と他者とのかかわりとの関連

($N=220$)

他者とのかかわり		男性 ($n=89$)		女性 ($n=131$)		P
		n	(%)	n	(%)	
近所づきあい	あり	49	(55.1)	73	(55.7)	0.123
	なし	40	(44.9)	58	(44.3)	
趣味の集まりへの参加	あり	28	(31.5)	37	(28.2)	0.582
	なし	61	(68.5)	94	(71.8)	
町内会活動への参加	あり	38	(42.7)	40	(30.5)	0.054
	なし	51	(57.3)	91	(69.5)	
老人クラブへの参加	あり	51	(57.3)	44	(33.6)	< 0.001
	なし	38	(42.7)	87	(66.4)	
職場のOB会への参加	あり	6	(6.7)	5	(3.8)	0.347 ^a
	なし	83	(93.3)	126	(96.1)	

注) 検定方法 χ^2 検定

^a : Fisher's exact test

表2 対象者のQOL、BMI、ADLの相関

($N=353$)

尺度	1	2	3	4	M	SD
1. QOL ^a	-	0.15 *	0.64 **	0.53 **	87.52	10.26
2. BMI	0.15 *	-	0.08	0.05	23.24	8.52
3. ADL ^b	0.64 **	0.08	-	0.84 ***	94.83	6.45

注) Spearmanの順位相関係数

^a $n=348$, ^b $n=350$

* $P<0.05$, ** $P<0.01$, *** $P<0.001$

III 文献

1. 文献の記載方法は以下に従う。

- 1) 文献については、本文中に著者名、発行年次を括弧表示する。著者が複数の場合には「～ら」ま

たは「～et al.」と筆頭著者の姓を記載する。

例) 「・・・重要性が示唆され(湯沢, 1997), ・・・」

「・・・に関する文献(上田ら, 2010)・・・」

「・・・古川(2001)の定義する・・・」

「・・・Davis et al. (2014)の研究では, ・・・」

- 2) 文献は著者名のアルファベット順に列記する。但し、共著者は3名まで表記し、3人の著者名+『, 他』とする(以下の例を参照)。英文の文献で著者が4人以上の場合は、3人の著者名+『, et al.』とする。

- 3) 本文中に複数の文献を引用した場合は、引用文献リストと同じ順序でアルファベット順に並べる。異なる著者による複数の著作を同じカッコ内で引用する場合は、カッコ内に第一著者の姓のアルファベット順で文献を並べ、セミコロンで文献を区切る。同じ著者による複数の文献は発行年の順に配置する。印刷中の文献の引用は最後に置く。

例) 「.....保健師の専門能力(岡本ら, 2007; 佐伯ら, 2004; 塩見ら, 2016)が示されている。」

「.....に関する研究(山田, 2011, 2013, in press)では,」

- 4) 同一筆頭著者(共著者が異なる場合も含む)による、同じ年に発行された異なる文献を引用した場合は、発行年のあとにアルファベットを記し、これらの文献を区別する。本文末の文献リストにおいても、同様の扱いとする。共著の場合は第2著者のアルファベット順、第2著者が同じ場合は第3著者のアルファベット順で並べる。著者が同じ場合はタイトルでアルファベット順に並べる。

例) 蔭山ら(2015a)は.....の重要性を指摘している。また,について,が報告されている(蔭山ら, 2015b)。

- 5) 同一書籍において引用箇所の著者が異なる場合は、これらの文献を区別して記載する。本文末の文献リストにおいても、同様の扱いとする。

例) 質的研究には.....の特徴があり(グレック, 2016), 特にグラウンデッド・セオリーアプローチは...に適し, ...のような方法と手順を用いる(萱間, 2016)。

- 6) 同一著者による同一書籍において異なる箇所を引用した場合は、これらの文献を区別し、本文中に著者名、発行年次、最初のページ数を括弧表示する。本文末の文献リストは、著者名、書名、引用した複数箇所のページ数、出版社名、発行地を記載する。

例) エスノグラフィーとは...であり(麻原, 2016, p. 99), その主な特徴は...である(麻原, 2016, p. 103)。

- 7) 投稿論文の査読は、著者名などを匿名にて行うため、本人の著であっても「筆者」「拙著」などとせず、筆者名による表記とする。

【雑誌掲載論文】

・著者名(発行年次): 論文の表題, 掲載雑誌名, 号もしくは巻(号), 最初のページ数-最後のページ数。

例)

織瀬朋弥, 後閑容子, 石原多佳子, 他(2013): 妊娠判明後のパートナーの喫煙行動の変化と関連要因, 日本公衆衛生雑誌, 60(4), 212-221. https://doi.org/10.11236/jph.60.4_212

蔭山正子, 大島巖, 中村由嘉子, 他(2015a): 精神障がい者家族ピア教育プログラムの実施プロトコル遵守に関する尺度開発 フィデリティ尺度, 日本公衆衛生雑誌, 62(4), 198-208. https://doi.org/10.11236/jph.62.4_198

蔭山正子, 横山恵子, 中村由嘉子(2015b): 家族ピア教育プログラムを精神障がい者家族が継

続実施することで得る利益 プログラム事後調査, 日本地域看護学会誌, 18 (1), 28-37.
https://doi.org/10.20746/jachn.18.1_28

Wilson A. H., Blake B. J., Taylor G. A., et al. (2013): Cinemeducation: teaching family assessment skills using full-length movies, *Public Health Nursing*, 30(3), 239-245.
<https://doi.org/10.1111/phn.12025>

【単行本】

- ・著者名（発行年次）：書名（版数），ページ数，出版社名，発行地。
- ・著者名（発行年次）：論文の表題，編者名，書名（版数），ページ数，出版社名，発行地。

例)

井伊久美子, 松本珠実, 堀井とよみ, 他編 (2013) : 新版保健師業務要覧 (第3版), 4-5, 日本看護協会出版会, 東京.

Wilson L. L. (2010): The world as community: globalization and health, In Anderson E. T., McFarlane J. (eds.), *Community as partner: theory and practice in nursing* (6th ed.), 2-15, Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia.

グレッグ美鈴 (2016) : 質的研究とは, グレッグ美鈴, 麻原きよみ, 横山美江編著, よくわかる質的研究の進め方・まとめ方第2版 看護のエキスパートをめざして, 21-23, 医歯薬出版, 東京.

萱間真美 (2016) : グラウンデッド・セオリー, グレッグ美鈴, 麻原きよみ, 横山美江編著, よくわかる質的研究の進め方・まとめ方第2版 看護のエキスパートをめざして, 88-94, 医歯薬出版, 東京.

麻原きよみ (2016) : エスノグラフィー, グレッグ美鈴, 麻原きよみ, 横山美江編著, よくわかる質的研究の進め方・まとめ方第2版 看護のエキスパートをめざして, 99-101, 103-105, 医歯薬出版, 東京.

【翻訳書】

- ・原著者名（原書の発行年次）／訳者名（翻訳書の発行年次）：翻訳書の書名（版数），ページ数，出版社名，発行地。

例)

Glanz K., Lewis F. M., Rimer B. K. (2002) / 曾根智史, 渡部基, 湯浅資之, 他訳 (2006) : 健康行動と健康教育: 理論, 研究, 実践, 217-236, 医学書院, 東京.

- 8) オンライン版でDOIのある場合は, DOIを記載する. なお, オンライン版でDOIのない場合は, アドレス (URL) を記載する.

- ・著者名（発行年次）：論文の表題, 掲載雑誌名, 号もしくは巻 (号), 最初のページ数-最後のページ数. <https://doi.org/xxx>

例)

Tanihara S. (2014): The proportion of uncoded diagnoses in computerized health insurance claims in Japan in May 2010 according to ICD-10 disease categories, *Journal of Epidemiology*, 24, 392-396. <https://doi.org/10.2188/jea.JE20130194>

- 9) インターネットのサイトなど, 逐次的な更新が前提となっている資料を引用する場合は, サイト名とアドレスを明確に記載するとともに, 検索した年月日も付記する.

- ・著者名（発行年）：表題, アドレス (検索日: 年月日)

例)

厚生労働省 (2013) : 平成25年度保健師活動領域調査 (領域調査) の結果について,

http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/hoken/katsudou/09/ryouikichousa_h25.html (検索日: 2014年12月1日)

- 10) 辞書・辞典を引用する場合は, 著者名がわからないことが多いため, 監修・編者, 発行年, 辞書・

辞典名，ページ数，出版社名，発行地を記載する．オンライン辞書・辞典の場合は，アドレス（URL）を記載する．

例)

新村出編（2018）：広辞苑（第7版），100-101，岩波書店，東京．

松村明（監修），池上秋彦，金田弘，他編（2012）：デジタル大辞泉（第2版），100-101，小学館，東京．<https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=2001005220100>

本文中で引用する場合

例）「新村（2018）」または「（新村，2018）」

IV 投稿システムへの入力

1. 論文の投稿は電子投稿システム「Scholar One Manuscripts™」で行う．電子投稿システムにそって，著者名や所属機関名，謝辞，研究助成，著者資格，付記を入力する
2. 原稿には，電子投稿システム画面上に入力した著者名，所属，謝辞などの投稿者を特定できるような事項を記載しない．
3. 原稿は，本文・文献のページに通しの行番号（連続番号としてページ毎にふり直しをしない）を付けて印字する．
4. 電子投稿システムにアップロードする書類は，原稿と図表，論文チェックリスト，著作権同意書，本会の学会誌等で発表を行う著者の利益相反（COI）申告書である．
5. 投稿論文チェックリストをもとに，投稿する前に原稿を点検・確認する．

V 研究の報告に関するガイドライン，基準

論文執筆では，公表されている研究の報告に関するガイドライン，基準を参照することを推奨する．特に，ランダム化比較試験（randomized controlled trial; RCT）では，CONSORT声明に従う．また，介入研究（臨床試験）は，臨床試験登録公開制度システム（UMIN-CTR など）に登録し，登録番号と日付を本文に記載する．

2017年6月10日作成

2017年7月15日改正

2018年4月6日改正

2021年3月21日改正

2021年12月18日改正

2022年6月6日改正

2024年5月17日改正

2025年7月1日改正

活動報告の倫理的配慮の考え方

【活動報告に明記すべき倫理的配慮の内容】

I 人を対象に行った調査*が含まれた活動報告を投稿する場合

人を対象とした研究を実施する際には、ヘルシンキ宣言に従い、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に沿った倫理的配慮が必要である。活動報告の評価等に人を対象とした調査が含まれている場合、必要な倫理的配慮として、以下の 1)～5) を満たしていることを投稿原稿に明記する。

1. 投稿原稿のすべての過程において、次の倫理的配慮がなされている。
 - 1) 対象者が不利益を被らない。
 - 2) 対象者の自由意思を尊重している。
 - 3) 個人情報保護を守っている。
2. 活動に関する調査の目的を、調査対象者に伝えている。
3. サービスや技術の質向上のために報告・公表し、専門職間で共有する可能性があることを、調査対象者に伝えている。
4. 報告・公表することに対し、所属機関の承諾を得ている。
5. 調査対象者が拒否できる機会を保障している。（オプトアウトも可）
※オプトアウトによる場合は、研究対象者等への文書の送付、パンフレットの配布、ホームページへの掲載、研究対象者等が確認できる場所への書面の掲示・備付け等により、倫理的配慮に関して研究対象者等が容易に知り得る状態に置く必要がある。当該内容に変更がある場合は、変更内容を研究対象者等が容易に知り得る状態に置く必要がある。（参考：厚生労働省、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針ガイダンス）
6. 倫理審査委員会の承認を受けて行った活動の場合は、承認した倫理審査委員会の名称、承認番号、承認年月日を本文中に記載する。
7. すでに実施した活動を活動報告として報告する場合、人を対象にした調査が含まれているものについては、投稿前に 1～5 を満たしていることを確認し、編集委員長に相談する。必要時、本学会の倫理審査委員会の承認を受ける。編集委員長への相談は編集事務担当を通じて行う。

連絡先：〒113-0033 東京都文京区本郷2丁目2番地16 大学通信教育ビル5階
中西印刷（株）内日本公衆衛生看護学会誌編集事務担当

TEL：03-3816-0738 FAX：03-3816-0766

E-mail：japhn-ed@nacos.com

II 組織や業務を対象とした調査*を活動報告として投稿する場合

所属機関から公表の承諾を得ていることを投稿原稿に明記する。

例：業務改善に関する実践報告で、対象に人や人を対象とした調査を含まないもの。

III 倫理的に問題がないかどうかの判断

I および II において倫理的に問題がないかについては、本学会編集委員会にて判断するものとする。

*ここでいう「調査」とは、活動そのものではなく、報告する活動を振り返り、整理・分析した結果を示したものを指す。

2022年6月6日作成